

## 今週の株式相場見通し

- \* 日経平均 22,600~23,300円 TOPIX 1,790~1,830
- \* 期待材料 円安進行 IoT社会の実現 IoT、AI活用による生産性改善
- \* 不安材料 地政学的リスク 中国経済の成長鈍化 貿易摩擦激化

好調な企業業績の推移を確認して米国 S&P500 はやや戻り歩調にあるが、予想 PER も 17.2 倍まで上昇し割安感は後退している。米国 10 年債利回りが 3% 台に乗せるなかでは、PER 上昇に伴い株価が値上がりする可能性は低く、米国 S&P500 は上値が重い展開になろう。むしろ、現時点でさらに値上がりすると、きっかけ次第で今年 2 月の様な急落の展開も想定され注意したい。一方、日本株は米国長期金利の上昇に伴いドル高が進んでいることが追い風になり、戻り歩調が継続するものと思われる。3 月期企業の 18 年度業績見通しは、業績好調企業ほど楽観的で、設備投資、研究開発投資を積極的に行う方針を示している。自信の根拠として印象に残ったのは、安川電機社長の「この先数年で一番の鍵になるのは 5G への移行だ。4G へのシフト以上に 5G へのシフトによって革新的な変化が起こる。」との言葉だ。18 年末の北米を皮切りに、19 年中には韓国、20 年初には中国、日本で導入開始される 5G が、今後の産業構造を大きく変化させる時代に備えて、企業側は長期のビジョンを描き対応を進めている。特に、半導体関連企業は事業拡大に積極的で、設備投資額を SCREEN HD は前年比 2.2 倍、東京エレクトロン向けに部品を納入しているマルマエは 3.4 倍、半導体ウエハ搬送装置のローツェは 2.2 倍、車載用などパワー半導体中心に富士電機 HD は 1.9 倍、半導体製造装置などに制御用モータを納入している安川電機も 1.5 倍に拡大させる方針。生産能力が限界に近いため 18 年度の業績は踊り場になる企業もあるが、5G 時代の到来に向けてメモリ、高性能半導体、パワー半導体、ロボット、モータなどの需要は今後一段と拡大し、ハイテク株中心に業績拡大基調が継続するものと思われる。(5 月 17 日現在、松本 直志)

## 今週の予定

|             | 国内  | 海外   |
|-------------|---|--|
| 5/21<br>(月) | 4 月貿易収支 (8:50)<br>4 月のマンション市場動向                                   | [アルゼンチン]G20 外務相会合<br>[独]休場(聖霊降臨祭の月曜日)  |
| 22(火)       | 自民党細田派パーティー   | [米]米韓首脳会談  |
| 23(水)       | 5 月日経日本製造業 PMI (9:30)<br>ワイヤレスジャパン(~25 日)<br>人とくるまのテクノロジー展(~25 日) | [欧]5 月ユーロ圏製造業 PMI (17:00)<br>[米]4 月新築住宅販売件数 (23:00)<br>[米]FOMC 議事要旨 (5 月 1 日、2 日開催分) |
| 24(木)       | 櫻井日銀審議委員 群馬県金融経済懇談会における挨拶<br>季刊「日本版 IR」刊行記念シンポジウム                 | [米]4 月中古住宅販売件数 (23:00)<br>[露]サンクトペテルブルク国際経済フォーラム(~26 日)                              |
| 25(金)       | 5 月東京 CPI (8:30)<br>WBA バンタム級タイトル戦 ジェイミー・マクドネル×井上尚弥               | [欧]EU 一般データ保護規則 (GDPR) 適用開始<br>[独]5 月 IFO 企業景況感指数 (17:00)<br>[米]4 月耐久財受注 (21:30)     |
| 26(土)       | 第 28 回日本臨床工学会(~27 日)<br>バスケットボール男子 B リーグ決勝                        | [露]日露交流年開幕式<br>[露]日露首脳会談   |
| 27(日)       | 大相撲 5 月場所 千秋楽<br>競馬 東京優駿(日本ダービー)                                  | [モナコ]F1 モナコ GP 決勝<br>[米]インディアナポリス 500 マイル決勝  |

出所はロイター、ブルームバーグ、新聞各紙等より、時刻は日本時間(予定)

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、宜しくお願い致します。

## 今週の参考銘柄

### JSR (4185) 東証1部



|        | 17年3月期<br>(百万円) 前年比 | 18年3月期<br>(百万円) 前年比 | 19年3月期(予)<br>(百万円) 前年比 | 株価(5/17)  | 2,181 円 |
|--------|---------------------|---------------------|------------------------|-----------|---------|
| 売上高    | 388,455 —           | 421,930 8.6%        | 490,000 16.1%          | 業種        | 化学      |
| 営業利益   | 35,943 —            | 43,569 21.1%        | 48,000 10.2%           | 売買単位      | 100 株   |
| 税前利益   | 38,294 —            | 46,206 20.7%        | 49,000 6.0%            | PER(予想)   | 14.5 倍  |
| 当期純利益  | 30,243 —            | 33,230 9.9%         | 33,500 0.8%            | PBR(実績)   | 1.2 倍   |
| EPS(円) | 135.2               | 149.3               | 150.5                  | ROE(実績)   | 8.8 %   |
| 配当金(円) | 50                  | 50                  | 60                     | 配当利回り(予想) | 2.8 %   |
|        |                     |                     |                        | 担当        | 多功 毅    |

18年3月期よりIFRS決算に移行し、17年3月期もIFRS基準の業績を公表。16年3月期については日本基準の決算情報のみのため、17年3月期は前年比較数値無し  
出所：業績に関する数値は決算短信より

18年3月期決算は、前年比8.6%増収、21.1%営業増益での着地となった。エラストマー事業は原料と売価の価格差であるスプレッド拡大及び注力する高付加価値合成ゴムSSBRを生産するタイヤ子会社の稼働率向上が業績拡大に寄与し、合成樹脂事業は自動車向けの数量増及びスプレッド拡大が売上、利益をけん引した。また、多角化事業においては、半導体材料が顧客業界の活況に加えて、シェアも上昇したと推察されるArFレジストを中心に各種材料が好調に推移し、また注力するライフサイエンス事業は、業容拡大に伴い下期に黒字転換を果たした。

19年3月期については、前年比16.1%増収、10.2%営業増益を計画。エラストマー事業については引き続きSSBRが堅調に推移することが見込まれるものの、スプレッドの平常化及びハンガリー新工場稼働による先行的なコスト負担の発生があり減益となる見込み。一方、半導体材料が引き続き好調に推移することが見込まれることに加えて、ライフサイエンス事業が年間でも黒字を計上する計画となっている。

タイヤ向けSSBRは、環境規制強化に伴う省エネ性能の向上やEV化進展に伴う耐摩耗性向上を目的とした需要拡大が見込まれる。半導体材料については、ロジック半導体のEUV露光の採用、NANDの3D化による先端材料の採用拡大に期待したい。また、ライフサイエンスは買収企業の知見や半導体事業のノウハウを活用し、2020年代半ばに売上高1,000億円規模、営業利益率10~20%をイメージした拡大を目指している。

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、宜しくお願い致します。

## 説明会より

| 銘柄<br>(コード)<br>市場<br>株価(5/17)<br>売買単位                   | コメント  |
|---|---|
| <b>コシダカ HD</b><br>(2157)<br>東証1部<br>6,770円<br>100株      | 上期決算は前年同期比13.2%増収、17.1%営業増益になり、売上高は11期連続で過去最高を更新。首都圏での出店を加速してきたカラオケ事業で収益改善が進み、カラオケ事業が前年同期比6.9%増収、45.4%増益となり全社の利益拡大をけん引。カーブスは新プロテイン投入で売上が増え前年同期比22.5%増収も、カーブス世界総本部買収の諸費用で2.6%増益。フィットネス事業を自由に展開するためカーブス世界総本部を買収。カーブスとは異なる対象者向けに、フィットネスの新業態を展開する方針。(松本 直志) |
| <b>ポーラ・オルビス HD</b><br>(4927)<br>東証1部<br>4,980円<br>100株  | 1Q決算は前年同期比6.2%増収、8.9%営業増益。「リンクルショットメディカルセララム(以下、リンクル)」の販売に伴い、前期に拡大した顧客ベースを基にポーラの既存顧客向け売上が拡大。海外では香港、上海に加えて、1月にオープンした韓国免税店が好調で、ポーラの海外売上は前年同期比2.6倍に拡大し、インバウンド消費後のリピート需要の取り込みに成功。「リンクル」は6月15日から香港、台湾の百貨店対面販売チャンネルで海外販売を開始し、19年からは韓国、タイ、中国で越境ECも開始予定。(松本 直志) |
| <b>ディスコ</b><br>(6146)<br>東証1部<br>21,160円<br>100株        | 17年度決算は前年同期比24.7%増収、62.7%営業増益となり、過去最高の売上、利益を更新。メモリなどデータセンタ向け半導体やセラミックコンデンサ、ガラス部品など幅広い用途で顧客の設備投資が活発化。高付加価値製品の販売増により、売上高総利益率は過去最高を達成。18年度1Qは中国スマートフォンの減速などで前年同期比14.7%減収、35.1%営業減益となるが、引き合いは高水準で、顧客の設備投資意欲は底堅く推移する見込み。(松本 直志)                              |
| <b>ミネベア<br/>ミツミ</b><br>(6479)<br>東証1部<br>2,210円<br>100株 | 前期決算は、ゲーム機やスマホ向けカメラモジュールが好調なミツミ事業、ボールベアリング、モータ、LEDバックライト等の拡販、生産性改善効果等により37.6%増収、61.5%営業増益で着地。今期からIFRS決算に移行。従来の日本基準に対して6.9%増収、4.8%営業増益を計画。スマホ市場の見通し及びLEDバックライトの歩留まりを保守的に織り込んだうえで、ボールベアリング、ロッドエンド、モータ、ミツミ事業等の拡販効果による業績拡大を計画。(多功 毅)                        |
| <b>トヨタ</b><br>(7203)<br>東証1部<br>7,555円<br>100株          | 前期決算は合理化効果、ハイブリッド車の好調な欧州での拡販効果、品質関連コストの大幅な低下、さらに円安も寄与することで6.5%増収、20.3%営業増益での着地。今期については、1ドル105円前提としたことに伴う円高の影響、日本、中近東を中心とした販売減少による影響を受けるが、アジアでの拡販、北米でのSUV系車種シフトによる製品構成の改善、さらに原価低減や品質関連コストの減少でカバーし1.3%減収、4.2%営業減益に留める計画。(多功 毅)                            |
| <b>伊藤忠</b><br>(8001)<br>東証1部<br>2,069.5円<br>100株        | 前期決算は、鉄鉱石の価格上昇及び数量増、石炭の価格上昇効果が大きく寄与した上に、欧州タイヤ事業や北米の建材事業が好調な住生活セグメントがけん引し前年比481億円増益となる純利益4,003億円を着地。今期については、資源価格の下落を前提とした金属事業の落ち込みを見込むものの、住生活、情報・金融、繊維、機械等の非資源事業の増益でカバーし純利益4,500億円、4円増配の74円配を計画。(多功 毅)   |

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、宜しくお願い致します。

## いつもあなたのそばで 頼れる金融機関です

やまわ

### ■ ■ ■ 山和証券店舗網 ■ ■ ■

|       |                |           |  |
|-------|----------------|-----------|--|
| 本店営業部 | (03) 3668-5412 | 〒103-0026 | 中央区日本橋兜町 1-8                           |
| 金町支店  | (03) 3600-6681 | 〒125-0041 | 葛飾区東金町 1-22-9                          |
| 高円寺支店 | (03) 3311-1171 | 〒166-0003 | 杉並区高円寺南 3-58-25                        |
| 大岡山支店 | (03) 5754-5523 | 〒145-0062 | 大田区北千束 3-28-1<br>パークホームズ大岡山ラヴィアンコート 1F |
| 巣鴨支店  | (03) 3918-6311 | 〒170-0002 | 豊島区巣鴨 3-33-2                           |
| 上板橋支店 | (03) 3935-0311 | 〒174-0071 | 板橋区常盤台 4-22-12                         |
| 深川支店  | (03) 5600-7891 | 〒135-0005 | 江東区高橋 11-1                             |
| 茂原支店  | (0475) 25-1151 | 〒297-0023 | 茂原市千代田町 1-6 茂原サンヴェルプラザ 1F              |



### ○金融商品取引法に基づく表示事項

◇商号：山和証券株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第190号  
加入協会：日本証券業協会

◇ご投資にかかる手数料の概要およびリスクについて

- ・国内上場株式等を購入する場合は、約定代金に対して最大 1.1772%(ただし約定代金 230,000円以下の場合は最大 2,700円)の委託手数料をいただきます。
- ・国内上場株式等は、価格の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、発行会社の信用状況の悪化等により投資元本を割り込むおそれがあります。商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので当該商品の契約締結前交付書面をよくお読みください。

### ○山和証券免責事項

- ・本アナリストレポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券の売買あるいは特定の証券取引の勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断と責任でおねがいします。
- ・本アナリストレポートの全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

発行 山和証券調査室